Powered by Vivliostyle

### 文体操舵録



『文体の舵を取れ』練習問題の手帳

ayhy

2

この本は『文体の舵をとれ ル=グウィンの小説教室』(2021)の課題を一個人が実施したものをまとめた制作物です。版元とは一切の関係がありません。

この作品はフィクションです。作中に登場する人物、団体、場所、 出来事はすべて架空のものであり、実在する人物、場所、出来事と は一切の関係がありません。

問三3b 傍観型の語り手36	問一3b 三人称限定① 32	問一3a 三人称限定② 27	視点と語りの声326	問三2b 傍観型の語り手22	三人称限定	問一2a 三人称限定② 13	と語りの声2	問二十		99	自分の文のひびき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		目次	
			問三6b 傍観型の語り手8	問一6b 三人称限定①74	問一6a 三人称限定②	視点と語りの声6・・・・・・・・・・・・・・8	問三5b 傍観型の語り手	問一5b 三人称限定①	問一5a 三人称限定②55	視点と語りの声5 54	問三4b 傍観型の語り手50	問一4b 三人称限定① 4	問一4a 三人称限定②	視点と語りの声440

問三12b 傍観型の語り手・・・・・・・162	問三9b 傍観型の語り手120
問一12b 三人称限定①·158	問一9b 三人称限定①16
問一12a 三人称限定②·153	問一9a 三人称限定②
視点と語りの声12 152	視点と語りの声9110
問三11b 傍観型の語り手 148	問三8b 傍観型の語り手106
問一11b 三人称限定①·	問一8b 三人称限定①102
問一11a 三人称限定②·139	問一8a 三人称限定②97
視点と語りの声11138	視点と語りの声8 9
問三10b 傍観型の語り手 134	問三7b 傍観型の語り手92
問一10b 三人称限定①·130	問一7b 三人称限定①88
問一10a 三人称限定②·125	問一7a 三人称限定② 83
視点と語りの声10 124	視点と語りの声782

問三16b	問三13b
問一16a 問一16a り	- 13a 三人称限定②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

合評会でご一緒した皆様に心より御礼申し上げます。

文体操舵録

# 自分の文のひびき

の意図が達成されたかという観点で突っ込んだ合評 面を設ければ、 の場合、 ことをセットとした合評会の設計もあります 11 。そ 解説のように作者が予め作品と合わせて解説を出す いますが、 書かれた文に意図を説明するのは野暮と言われて 本文が始まる前に書き手が意図を説明する紙 ワークショップの本によっては美術展示の 参加者は予断をもって文章を読み、そ

です。 探りで何も考える余裕がなかったのが正直なところ 章の第 問 第 一問とやっている間はとにかく手

ス、

になります。本文の後に置く場合は合評へのレスポン

読み手への答え合わせになるでしょうか。

∃"The anti-racist writing workshop the anti-racist writing workshop" (F. R. Chavez, 2021)など

動かないくらいだ。遠ざかっているはずなのに、 たいにぶつけた日記と、 ているのかも。 んとか「いい思い出になった」って話せる台本を作っ じゃないんだけど。取り消し線を沢山引きながら、 っている。どう考えても、 鞄を開けて、こうやって新しいノートを開く羽目にな さくならない。だから目を逸らすように下を向いて、 ひっかかったままの焦げた気球がいつになっても小 幌馬車がガンガン跳ねても22、 なかったって思い知らされる。胃が重い。重すぎて、 たことを書く気はない。ただ何もかもが失敗した訳じ かぎりは、 立ち去るころになって、あの子に大したことができ 本当のことはすぐわかるけど。起きなかっ 鞄に詰まった黒革の、苛立ちを毎日み 市長の手元のレコードがある 何かを書くのに向いた環境 胃だけは同じ位置から

文体操舵記録

[2]キャンバス地と木造の骨組みを使った旧大陸の幌馬車以上

金属体の骨格を再利用した幌馬車は振動を伝えやすい。

わけでもないだろう?ゃないし、日記だって、起きたこと全部を書いている

めて熱気球を打ち上げたときのことは。話じゃなかったとも思うんだ。火トカゲのマーサが始気持ち。でも、多分、視点を変えれば、そんなに悪いもっと上手くやれたはずだった、というのは正直な

### ◆ 問二 1

濃淡を認めるだろう。水面近くの白藍でも、深みの溶膿淡を認めるだろう。水面近くの白藍でも、深みの溶は、死んだ珊瑚も同然に色あせていた。いま空気のれば、死んだ珊瑚も同然に色あせていた。いま空気のれば、死んだ珊瑚も同然に色あせていた。いま空気の側から、坂を登り切って見下ろすなら、白と灰でないれば、死んだ珊瑚も同然に色あせていた。それでも白蛟の子はじた龍紗が下肢を保護していた。それでも白蛟の子は

むまい。白蛟は意を決すると、肢を揺らして殻のふちはずである。白蛟の、ましてや子ひとりの重さでは沈隣島に中身が戻り、橋が下り坂になるのはずっと先のたことのない色と形で手招きするように揺れていた。

空気の中で育つ藻と珊瑚が隣島の殻を覆い、白蛟が見珊瑚の浮き上がるような赤とも黄とも緑ともつかない。

けていく紺青でもなく、

水の纏う色ではない。

生きた

11

にかけた。



# 視点と語りの声 2

◆ 問一 2a 三人称限定①

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ

て歩いていく。 で歩いていく。 で歩いでは、男が半コに向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜いと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

にマットレスの感触。

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいる音がずっと右から下から左から――そして膝に足を音がずっと右から下から左から――そして膝に足を音がずっと右から下から左から――そして膝に足を対して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りが

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続極と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

## 問一 2a 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 啓が横に一歩踏み出して列からず

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

> 知っていた。仕方ないので列から動かずに、 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま 首を伸ば

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 啓は

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。

啓は駆けだしていた。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

### 文体操舵記録 13

が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。

か

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 遠隔型の語り 手

かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向 地球

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ サイクルキャプチャ®は、 チ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 内部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 対象が動いてくるのを 図式としては 《再構成圏内》

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 2a 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

のだ。 のだ。 のだ。 しれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時かに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

保安員に彼らを追い出すような権限はない。予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしやいけば

りな旧式スキャナの電源を入れる。

無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら

ない。私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

緒に歩いていた。

エントランスは殺風景で、出口ドアから覗くカラフ◆ 問四 2a 潜入型の語り手

ったかもしれない。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

ューズメントパークの園内である。

銀の半円リングが回っている。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

や

国、飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。ら、アトラクションの一部と言えなくもない。それは

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むといものだ。VRアミューズメント施設では実際に体をに送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれなだ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

く球の中央を通る。しかし時折、勢いあまった子供達正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込

おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、の中男を追る。しかし雨折。勢します。た子供這

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

れた線を隠しきれてはいない。

「当日の様子を話していただけますか?」

られる。

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

保安員が指導されているのは、そのような事

アで保安員を配置するよう記されている。

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答の割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答いれた。 当時のシフト表ではスキャナールームにの無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ

### 17 文体操舵記録

いた。

いた。

少なくともその点で、二人の利害は一致していた。
少なくともその点で、二人の利害は一致していった。
少なくともその点で、二人の利害は一致していた。
かった。
少なくともその点で、二人の利害は一致していた。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事別が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し

問一 2 b

三人称限

定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

て歩いていく。ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

できないった。弟の手前でさえなければ。 いちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 なっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 なっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 とたして歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 とたして歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 をと大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 とた。

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 る音がずっと右から下から左から――そして膝に足 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も

## 問一 2b 三人称限定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

ムがま

助走をつけてジャンプすると、半円のフレー

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で啓は駆けだしていた。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

▼ 問二 2b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。

----内部へ跳びこむことを要求する。図式としてはサイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転84〜8の範囲で回転している。像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、

超えたばかりの子供たちも、 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 何事もない顔をして回転

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と 整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ 未知の情報を読者に提示することを主目

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな っている。 先週交換したばかりのアーチ部は、 事前に苦情のあ

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

プできない子供たち、

跳びこむ動きが困難な利用者を

## 問三 2b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ –背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 今子供 着陸時

ないドアに向かって親子連れを先導した。

同シフトの

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

予定もたたないだろう。とはいえ、 威圧感を覚えたのか、 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に 彼らの顔が強張る。 私のような雇われ アミューズ

> て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 りな旧式スキャナの電源を入れる。 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて そちらの大掛か

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく 一緒に来たと思しき男の子と

緒に歩いていた。

ない。

### 問 四四 2 b 潜入型の語 り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ

銀の半円リングが回っている。

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

5

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、 いものだ。 に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

> ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

や

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 そのような事 を取

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒 それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 れた線を隠しきれてはいない。 唐木田が振り返ると、 機材の 跡の染みから目線を上 化粧でも、やつ

ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

無理もない。

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、エントラ そのシナリオは避けた

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ 余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

# 視点と語りの声 3

◆ 問一 3 a 三人称限定①

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ

て歩いていく。ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ駅けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 をだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 駅けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 をるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に りズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に りズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に りばして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 をと大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

にマットレスの感触。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと立んだレンズ――あんなの、も

# 問一 3 a 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。

啓は駆けだしていた。

での期間限定だけど。
じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとの期間限定だけど。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

サイクルキャプチャ®のアーチが回っている。 ◆ 問二 3a 遠隔 型の語り手

毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M

かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向地球

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そのを上りでする際の速度から映像中の重心位置を補正し、で突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 3a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

国

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 問 四 з а 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。

銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、 すでに入場料を払っているのだか

> 動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 5 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議の

や く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのような事られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当かれた線を隠しきれてはいない。

### 31 文体操舵記録

いた。

いた。

少なくともその点で、二人の利害は一致していた。
少なくともその点で、二人の利害は一致していった。
少なくともその点で、二人の利害は一致していた。
かった。
少なくともその点で、二人の利害は一致していた。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事務が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという◆ 問一 3b 三人称限定①

唸りに重なって、

周期的に繰り返す。

メトロノームみ

っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

て歩いていく。ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 る音がずっと右から下から左から――そして膝に足 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も

## 問一 3b 三人称限定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

文体操舵記録

ムがま

助走をつけてジャンプすると、半円のフレー

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

での期間限定だけど。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

問二 3b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。

——内部へ跳びこむことを要求する。図式としてはサイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを予回転84〜8の範囲で回転している。

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

超えたばかりの子供たちも、

何事もない顔をして回転

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を

プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン上ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の

35

# 問三 3b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。この世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、そちないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛かした。同シフトの

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてりな旧式スキャナの電源を入れる。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく緒に歩いていた。

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四四 3 b 潜入型の語 出口ドアから覗くカラフ り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

5

国

だ大人の子供のスキャンし、

その現し身をデータ世界

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

VRアミューズメント施設では実際に体を

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ や く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 そのような事 を取

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

いものだ。

文体操舵記録

37

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒 それこそが、 当時の面影は 唐木田がこの

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 れた線を隠しきれてはいない。 唐木田が振り返ると、 機材の 跡の染みから目線を上 化粧でも、やつ

ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、エントラ そのシナリオは避けた 事故の責任を

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ 余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

#### 視点と語りの声4

# しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという◆ 問一 4a 三人称 限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ

て歩いていく。 で歩いていく。 で歩いていく。 で歩いていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜いる。 がみ込んで大きく跳ねて、中空でふわりの先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、かるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、が、大して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りができまった。

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

通り抜けた。

無事に。みんなそうしてるみたいに。

にマットレスの感触。

40

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと立んだレンズ――あんなの、も

### 問一 4a 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

啓は駆けだしていた。

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

41 文体操舵記録

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。

か

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 遠隔型の語り 手

地球

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 サイクルキャプチャ®は、 チ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 内部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 対象が動いてくるのを 図式としては 《再構成圏内》 差し向

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目かが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

◆ 問三 4a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

のだ。 のだ。 のだ。 している親が浮かべているのと同じもたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

保安員に彼らを追い出すような権限はない。予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、

彼らの顔が強張る。

アミューズ

つまり私に

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させるようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

43 文体操舵記録

りな旧式スキャナの電源を入れる。

5

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

問 四四 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、 すでに入場料を払っているのだか

銀の半円リングが回っている。

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは

国

や く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ時間を延げることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

られる。

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣の間当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの上ていた。当時のシフト表ではスキャナールームにの無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラー、当日の様子を話していただけますか?」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。

いた。

いた。

少なくともその点で、二人の利害は一致していた。
少なくともその点で、二人の利害は一致していった。
少なくともその点で、二人の利害は一致していた。
かった。
少なくともその点で、二人の利害は一致していた。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事級が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 4 b

三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

であるでは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 となっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 る音がずっと右から下から左から――そして膝に足 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

けるのを見た。 しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

していられるの?

る。

膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

#### 問一 4b 三人称限定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

文体操舵記録

助走をつけてジャンプすると、半円のフレー

ムがま

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

問二 4b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。

R P Mかい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを毎分回転8~8の範囲で回転している。

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を卜施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

超えたばかりの子供たちも、

何事もない顔をして回転

整理がかなり大変だと思いました。

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になどできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること止がタンの本来の使用者である常駐保安員のやることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

49 文体操舵記録

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

### 問三 4b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じものだ。

ないドアに向かって親子連れを先導した。

同シフトの

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れていた。反射的に支給のレシーバーに手が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前が伸びるが、救護センターへのよりに表している。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく緒に歩いていた。

ない。

エントランスは殺風景で、出口ドアから覗くカラフ◆ 問四 4b 潜入型の語り手

ったかもしれない。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

ューズメントパークの園内である。ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか銀の半円リングが回っている。

5

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん国、飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

いものだ。

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

VRアミューズメント施設では実際に体を

だ大人の子供のスキャンし、

その現し身をデータ世界

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カや、おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、く球の中央を通る。しかし時折、勢いあまった子供達し球の中央を通る。しかし時折、勢いあまった子供達がの中央を通る。しかし時折、勢いあまった子供達飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込

ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキられる。保安員が指導されているのは、そのような事しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

51 文体操舵記録

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

場所を選んだ理由だった。 げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒 機材の それこそが、 跡の染みから目線を上 化粧でも、やつ 当時の面影は 唐木田がこの

> 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、エントラ そのシナリオは避けた 事故の責任を

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

いた。

れた線を隠しきれてはいない。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

#### 視点と語りの声 5

◆ 問一 5 a 三人称限定①

いく。

刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き吃りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

て歩いていく。 で歩いていく。 で歩いていく。 で歩いていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜いる。 がみ込んで大きく跳ねて、中空でふわりの先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

通り抜けた。

無事に。みんなそうしてるみたいに。

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、が近だして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切断けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切断けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切断けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りができまった。

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけにマットレスの感触。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと立んだレンズ――あんなの、も

#### 問一 5a 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

啓は駆けだしていた。

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。

か

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 5 a 遠隔型の語り 手

かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向 地球

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ サイクルキャプチャ®は、 チ内側の高速度カメラは一回 内部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 対象が動いてくるのを 転で30~40枚の人体 図式としては 《再構成圏内》

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 5a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

のだ。 のだ。 のだ。 しれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供いに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。

5

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

国

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

緒に歩いていた。

問 四四 5 a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、 銀の半円リングが回っている。 すでに入場料を払っているのだか

> 動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議の

や く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。といったが部屋を外していただけますか?」無理もない。高橋という名の元従業員は、エントランスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームといれたけますか?」「当日の様子を話していただけますか?」れた線を隠しきれてはいない。

59

いた。

なくともその点で、二人の利害は一致していた。少なくともその点で、二人の利害は一致していった。少なくともその点で、二人の利害は一致していた。少なくともその点で、二人の利害は一致していた。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという◆ 問一 5b 三人称限定①

唸りに重なって、

周期的に繰り返す。

メトロノームみ

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

て歩いていく。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、終と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 る音がずっと右から下から左から――そして膝に足 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も

#### 問一 5b 三人称限定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

ムがま 文体操舵記録

助走をつけてジャンプすると、半円のフレー

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いり柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

問二 5b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。

——内部へ跳びこむことを要求する。図式としてはサイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを|分回転&〜&の範囲で回転している。

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。かれキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をクルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を外においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備とれている。サイトを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは小ランポリンとアーチ部へ近づまる鎖の力線へ踏ひこと、

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

未知の情報を読者に提示することを主目

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の

と思います。

#### 63 文体操舵記録

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

## ▼ 問三 5b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。この世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、そちないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛かした。同シフトの

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近いてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

- ゆこ寺間がかかりますが、という前置きして保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻ってりな旧式スキャナの電源を入れる。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく緒に歩いていた。

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四四 5 b 潜入型の語 り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ 出口ドアから覗くカラフ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。 アトラクションの一部と言えなくもない。

5

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

それは

や

国 だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 虹をくぐった先の魔法の国、 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

VRアミューズメント施設では実際に体を

いものだ。

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 そのような事 を取

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。

65

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。

エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒は実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの場所を選んだ理由だった。

れた線を隠しきれてはいない。 げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上 ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致していった。少なくともその点で、二人の利害は一致していった。当時のシフト表ではスキャナールームにのまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をあぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めでる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証といった。少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致していった。少なくともその点で、二人の利害は一致していった。少なくともその点で、二人の利害は一致していった。少なくともその点で、二人の利害は一致していった。少なくともその点で、二人の利害は一致していった。少なくともその点で、二人の利害は一致していった。少なくともその点で、二人の利害は一致していった。

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

#### 視点と語りの声 6

◆ 問一 6a 三人称限定①

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ

て歩いていく。 で歩いていく。 で歩いていく。 で歩いていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜いる。 がみ込んで大きく跳ねて、中空でふわりの先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、別ズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいる音がずっと右から下から左から――そして膝に足を対して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りができたから上にない。

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけにマットレスの感触。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと立んだレンズ――あんなの、も

#### 問一 6a 三人称限定②

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずも力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずを変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコでも――啓が見たことのある本物のジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きを変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

啓は駆けだしていた。

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうとず中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。「一プよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコを変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

して向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

文体操舵記録

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

サイクルキャプチャ®のアーチが回っている。 ◆ 問二 6a 遠隔 型の語 り手

毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M

かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向地球

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そのを上りでする際の速度から映像中の重心位置を補正し、で突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目かが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

◆ 問三 6a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

のだ。のだ。としている親が浮かべているのと同じもたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供にのだめようとしている親が浮かべているのと同じもななだめようとしている親が浮かべているのと同じも思えいに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子と が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

◆ 問四 6a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん国、飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。ら、アトラクションの一部と言えなくもない。それは

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むといものだ。VRアミューズメント施設では実際に体をに送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれなだ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界

や、おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、く球の中央を通る。しかし時折、勢いあまった子供達正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込

72

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答

いた。

なくともその点で、二人の利害は一致していた。少なくともその点で、二人の利害は一致していった。少なくともその点で、二人の利害は一致していた。少なくともその点で、二人の利害は一致していた。

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が

▼ 問一 6b 三人称限定①

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

て歩いていく。

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそがと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

にマットレスの感触。 る音がずっと右から下から左から――そして膝に足駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、

膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像けるのを見た。

していられるの?

## 問一 6b 三人称限定②

れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

での期間限定だけど。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

問二 6b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。

R P Mかい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを毎分回転8~8の範囲で回転している。

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を卜施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

超えたばかりの子供たちも、

何事もない顔をして回転

と思います。

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の

未知の情報を読者に提示することを主目

77

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

# 問三 6b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。この世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりられるのは、まあマッサージとでも思えれに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

りな旧式スキャナの電源を入れる。

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、そちないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛かした。同シフトの

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく緒に歩いていた。

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四 6b 潜入型の語 り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ 出口ドアから覗くカラフ

銀の半円リングが回っている。

国 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 5 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いものだ。 に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

> ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー や

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 そのような事 を取

79

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。

場所を選んだ理由だった。

本ントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

れた線を隠しきれてはいない。 げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上 ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当にていた。当時のシフト表ではスキャナールームにの無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラー、当日の様子を話していただけますか?」

いた。

いた。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けためぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めでる訴訟は続いている。

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

## 視点と語りの声7

◆ 問一 7a 三人称限定①

いく。

「関を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突きたいに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

て歩いていく。ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ駅けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

にマットレスの感触。

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、が近だして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切断けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切断けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切断けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りができまった。

けるのを見た。

膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

ることは、悠にはまだ信じられない。

転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

### 問一 7 a 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 啓が横に一歩踏み出して列からず

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま 首を伸ば

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 啓は

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

文体操舵記録

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。

か

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 遠隔型の語り 手

かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向 地球

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ サイクルキャプチャ®は、 チ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 内部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 対象が動いてくるのを 図式としては 《再構成圏内》

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 7a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ一日ぶり十六件目。

のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。

保安員に彼らを追い出すような権限はない。予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

国

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

緒に歩いていた。

エントランスは殺風景で、 問 四 7 a 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

ューズメントパークの園内である。

その回る動きも、

銀の半円リングが回っている。 すでに入場料を払っているのだか

や

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 5 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議の

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのような事られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」れた線を隠しきれてはいない。

文体操舵記録

87

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答

いた。

なくともその点で、二人の利害は一致していた。少なくともその点で、二人の利害は一致していった。少なくともその点で、二人の利害は一致していた。少なくともその点で、二人の利害は一致していた。

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ糸談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという◆ 問一 7b 三人称限 定①

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

て歩いていく。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、終と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 る音がずっと右から下から左から――そして膝に足 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

していられるの?

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と

### 問一 7b 三人称限定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレー ムがま

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

問二 7b 遠隔型の語り手

RPMかい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、麓し向儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向サイクルキャプチャ®のアーチが回っている。地球

――内部へ跳びこむことを要求する。図式としてはサイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを毎分回転8〜48の範囲で回転している。

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

超えたばかりの子供たちも、

何事もない顔をして回転

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を

プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやることく人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停ちる銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

# 問三 7b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。この世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし一少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらりな旧式スキャナの電源を入れる。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく緒に歩いていた。

ない。

#### 問 四四 潜入型の語 り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ

銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

5

国

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いものだ。 VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

> ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

や

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 そのような事 を取

93

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチッので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチッので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチッので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチッので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチッので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチッので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチッので、広告に関する

「当日の様子を話していただけますか?」「当日の様子を話していただけますか?」無理もない。高橋という名の元従業員は、エントランスのスキャナールームとレセプションの両方を担当といったかが部屋を外しているときの出来事だった。といったかが部屋を外しているときの出来事だった。といったかが部屋を外しているときの出来事だった。まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をあぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれるむだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたかった。少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

げて緑のジャケットの女性が頷いた。

化粧でも、やつ

いた。

れた線を隠しきれてはいない。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

## 視点と語りの声8

▼ 問一 8 a 三人称限定①

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ

て歩いていく。 で歩いていく。 で歩いでは、男が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわりの先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

通り抜けた。

無事に。

みんなそうしてるみたいに。

る音がずっと右から下から左から――そして膝に足やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、駅けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りができまった。

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続き、悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけにマットレスの感触。

96

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

### 問一 8 a 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 啓が横に一歩踏み出して列からず

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

啓は駆けだしていた。

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

> 知っていた。仕方ないので列から動かずに、 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 首を伸ば

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま 啓は

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

97

が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。

か

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 8 a 遠隔型の語り 手

地球

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ サイクルキャプチャ®は、 チ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 内部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 対象が動いてくるのを 図式としては 《再構成圏内》 差し向

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目からが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 8a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こートを蹴り十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカートを蹴りつけ続け

のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。

保安員に彼らを追い出すような権限はない。予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

ない。私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

緒に歩いていた。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミエントランスは殺風景で、出口ドアから覗くカラフー 8a 潜入型の語り手

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。

銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであいう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであがた人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれないものだ。VRアミューズメント施設では実際に体をいものだ。VRアミューズメント施設では実際に体をいものだ。VRアミューズメント施設では実際に体をいものだ。VRアミューズメント施設では実際に体をいるのが、VRアミューズメント施設では実際に体をいるのであります。

や、おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、く球の中央を通る。しかし時折、勢いあまった子供達正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

れた線を隠しきれてはいない。

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣とていた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋も唐木田も、 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた

るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はか こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に の事例が念頭にありました。 なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触させ

口

唸りに重なって、 しゅわん、 と風を切る音がする。低いぶーんという 8b 周期的に繰り返す。 三人称限 定 (1) メトロノームみ

> いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

ける。 て歩いていく。 りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 ることは、悠にはまだ信じられない。 っちへ行きたかった。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け 弟の手前でさえなければ

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

にマットレスの感触。 る音がずっと右から下から左から――そして膝に足駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に

膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もびも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像けるのを見た。

していられるの?

## 問一 8b 三人称限定②

部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からであり、このはながわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このど、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このでも――啓が見たことのある本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、馴に戻った。

103 文体操舵記録

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

して向こう側を見ようとする。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレー

ムがま

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

問二 8b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。

―内部へ跳びこむことを要求する。図式としてはサイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを分回転84〜&の範囲で回転している。

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を卜施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること上ボタンの本

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

105 文体操舵記録

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

#### 問三 8b 傍観型の語 じり手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ –背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 着陸時 今子供

予定もたたないだろう。とはいえ、 威圧感を覚えたのか、 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 近づいてくる強面の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 私のような雇われ つまり私に アミューズ

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た て赤くなった目でこちらを見上げてくる。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし 安心させる

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 緒に来たと思しき男の子と

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛か

同シフトの

緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四四 8b 潜入型の語 出口ドアから覗くカラフ り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

5

だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いものだ。 に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

や

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう

態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

られる。保安員が指導されているのは、

そのような事

を取

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。 げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田 エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒 が振り返ると、 機材の それこそが、 跡の染みから目線を上 化粧でも、やつ 当時の面影は 唐木田がこの

「当日の様子を話していただけますか?」 「当日の様子を話していただけますか?」 「当日の様子を話していただけますか?」 「当日の様子を話していただけますか?」 「当日の様子を話していただけますか?」

► いた。 少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた

言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

た線を隠しきれてはいない。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

## 視点と語りの声9

\* 問一 9a 三人称限定①

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ

て歩いていく。 で歩いていく。 で歩いでは、男が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわりの先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

通り抜けた。

無事に。

みんなそうしてるみたいに。

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にりズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にりズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にりばいばいて、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なる音がずっと右から下から左から一番に足る音がずっと右から下から左から一番に足る音がずっと右から下から左から一番に足る音がずっと右から下から左から一番に足る音がずっと右から下から左がら

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

٤ していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

### 問一 9a 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 啓が横に一歩踏み出して列からず

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 首を伸ば

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 啓は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で 啓は駆けだしていた。 レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

#### 文体操舵記録 111

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

ゕ

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 9a 遠隔型の語り 手

地球

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 ・チ内 ´イクルキャプチャ©は、 1部へ跳びこむことを要求する。 .側の高速度カメラは一回 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 対象が動いてくるのを 転で30~40枚の人体 図式としては 《再構成圏 差し向 内

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 9a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃー日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させるようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

#### 113 文体操舵記録

りな旧式スキャナの電源を入れる。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を

緒に歩いていた。

問 四 9 a 潜 入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、 銀の半円リングが回っている。 すでに入場料を払っているのだか

> だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 5 に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議の

国

や く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

保安員が指導されているのは、そのような事

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

アで保安員を配置するよう記されている。

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

「当日の様子を話していただけますか?」れた線を隠しきれてはいない。

無理もない。

高橋という名の元従業員は、エントラ

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当

#### 115 文体操舵記録

まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めでる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めでる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めでる訴訟は続いている。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事務が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという◆ 問一 9b 三人称限 定①

いく。 刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってれいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 なっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 なっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 なっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 なことは、悠にはまだ信じられない。 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に

駆けだして、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 る音がずっと右から下から左から――そして膝に足 にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

けるのを見た。 していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も

る。

悠は口を引き結び、

振り向いて円リングが回り続

膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

### 問一 9b 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

文体操舵記録

助走をつけてジャンプすると、半円のフレー

ムがま

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

での期間限定だけど。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。◆ 問二 9b 遠隔型の語り手

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そー―内部へ跳びこむことを要求する。図式としては毎分回転84〜8の範囲で回転している。

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を卜施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

超えたばかりの子供たちも、

何事もない顔をして回転

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

119 文体操舵記録

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

#### 問三 9b 傍観型の語 じり手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ –背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 今子供 着陸時

ないドアに向かって親子連れを先導した。

予定もたたないだろう。とはいえ、 威圧感を覚えたのか、 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 近づいてくる強面の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 私のような雇われ つまり私に アミューズ

緒に歩いていた。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 りな旧式スキャナの電源を入れる。 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 緒に来たと思しき男の子と そちらの大掛か

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 同シフトの

ない。

#### 問 四 . 9b 潜入型の語 り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ

銀の半円リングが回っている。

や

おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、

く球の中央を通る。

勢いあまった子供達

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

5

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、 ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 そのような事 を取 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

VRアミューズメント施設では実際に体を

だ大人の子供のスキャンし、

その現し身をデータ世界

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 踏み込

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝しておずんだ枠となって残っている。アトラクションではないので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真を出いる。

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

ります

いた。

まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をといったかが部屋を外しているときの出来事だった。していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのとれているが、事故が起きた時の第一応答み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答いったがが部屋を外しているときの出来事だった。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

# 視点と語りの声 10

◆ 問一 10a 三人称限定①

いく。

刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き吃りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

通り抜けた。

無事に。

みんなそうしてるみたいに。

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 をだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に りズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に りズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に りズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に りばして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 をと大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

けるのを見た。
る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけにマットレスの感触。

124

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

## 問一 10a 三人称限定②

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 - 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

> 知っていた。仕方ないので列から動かずに、 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 首を伸ば

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 啓は

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

啓は駆けだしていた。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

文体操舵記録

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

ゕ

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 10a 遠隔型の語 前り手

かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向 地球

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 ・チ内 ´イクルキャプチャ©は、 1部へ跳びこむことを要求する。 .側の高速度カメラは一回 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 対象が動いてくるのを 転で30~40枚の人体 図式としては 《再構成圏 内

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 10a 傍観型の語り手

日ぶり十六件目。

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

のだ。 のだ。 のだ。 している親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を

緒に歩いていた。

問 四四 10a 潜入型

立の語 前り手

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ

その回る動きも、 すでに入場料を払っているのだか

銀の半円リングが回っている。

5 だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議の

国

や く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣の間の様子を話していただけますか?」「当日の様子を話していただけますか?」「当日の様子を話していただけますか?」を担当れた線を隠しきれてはいない。

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。

いた。 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋も唐木田も、 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた

るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はか こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触させ

П

唸りに重なって、 しゅわん、 問一 10b と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。メ 三人称限 定 (1) トロノームみ

> いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ける。 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ て歩いていく。 りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 ることは、悠にはまだ信じられない。 っちへ行きたかった。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け 弟の手前でさえなければ

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 る音がずっと右から下から左から――そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も

٤

## 問一 10b 三人称限定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

助走をつけてジャンプすると、半円のフレー

ムがま

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓は わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に向か

## 遠隔型の語

R P M かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、 毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 10b り手 地球

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ 内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

サイクルキャプチャ®は、

対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。サイクルキャプチャ©は アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 《再構成圏 内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

っている。 のできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン はがないの本来の使用者である常駐保安員のやること はがないのでは、 がいてがない。 いている。

> 整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

133 文体操舵記録

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

# ▼ 問三 10b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。この世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近いてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ばすんという大きな音がした。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく緒に歩いていた。

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四 . 10b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

5

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を

だ大人の子供のスキャンし、

その現し身をデータ世界

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

られる。保安員が指導されているのは、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 そのような事 踏み込 を取

や

文体操舵記録 135

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒 それこそが、 当時の面影は 唐木田がこの

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 た線を隠しきれてはいない。 唐木田 が振り返ると、 機材の 跡の染みから目線を上 化粧でも、やつ

ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 そのシナリオは避けた 事故の責任を エントラ

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

# 視点と語りの声 11

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという◆ 問一 11a 三人称限 定①

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ

たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

いく。刺れさる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

て歩いていく。

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、駅けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切断けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切断けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切断けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切断けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切断けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがする。

けるのを見た。。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

通り抜けた。

無事に。

みんなそうしてるみたいに。

にマットレスの感触。

138

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと立んだレンズ――あんなの、も

# 問一 11a 三人称限定②

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずも戸壁には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

啓は駆けだしていた。

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

して向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はバリアを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

139 文体操舵記録

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

か

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 遠隔型の語 前り手

毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M

かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向 地球

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 サイクルキャプチャ®は、 チ内 1部へ跳びこむことを要求する。 .側の高速度カメラは一回 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 対象が動いてくるのを 転で30~40枚の人体 図式としては 《再構成圏 内

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とがギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三11a 傍観型の語り手

日ぶり十六件目。

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

のだ。 のだ。 のだ。 しれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時かに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

141 文体操舵記録

りな旧式スキャナの電源を入れる。

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

緒に歩いていた。

問 四四 潜入型の語 前り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、 すでに入場料を払っているのだか

や

おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は

5 だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議の

国

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣とていた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

#### 143 文体操舵記録

まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めでる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めでる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めでる訴訟は続いている。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事別が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという◆ 問一 11b 三人称限定①

いく。 刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってれいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

て歩いていく。ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 なっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 なっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 なっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 なことは、悠にはまだ信じられない。 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 る音がずっと右から下から左から――そして膝に足 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も

#### 問一 11b 三人称限定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

助走をつけてジャンプすると、半円のフレー ムがま

文体操舵記録

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

である。バリアってこういうことなんだ。次の人まいます。 をは駆けだしていた。 下ランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と 下ランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と をは駆けだしていた。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

問二 11b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。

R P Mかい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、麓し向儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

──内部へ跳びこむことを要求する。図式としては、サイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを毎分回転8〜48の範囲で回転している。

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ@へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になけずる銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。とは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

未知の情報を読者に提示することを主目

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の

と思います。

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

# 問三 11b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。この世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし一少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく緒に歩いていた。

ない。

#### 問 四 11b

潜入型の語り手

ったかもしれない。

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ

銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 虹をくぐった先の魔法の国、 5 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

られる。保安員が指導されているのは、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 そのような事 を取

や

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

VRアミューズメント施設では実際に体を

だ大人の子供のスキャンし、

その現し身をデータ世界

文体操舵記録 149

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒 それこそが、 当時の面影は 唐木田がこの

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 た線を隠しきれてはいない。 唐木田 が振り返ると、 機材の 跡の染みから目線を上 化粧でも、やつ

ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 そのシナリオは避けた 事故の責任を エントラ

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

#### 視 点と語 りの声 12

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 問一 12a 三人称限 定①

いく。 唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

て歩いていく。 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から――そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

けるのを見た。 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

る。

にマットレスの感触。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

### 問一 12a 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

> 知っていた。仕方ないので列から動かずに、 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 首を伸ば

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 啓は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で 啓は駆けだしていた。 レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

文体操舵記録

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

ゕ

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 遠隔型の語 前り手

毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 サイクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを 差し向 地球

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 チ内側の高速度カメラは一回 サイクルキャプチャ®は 転で30~40枚の人体 《再構成圏 内

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

大縄跳びに近い。

附帯設備の可動トランポリンは、そ

1部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三12a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

緒に歩いていた。

エントランスは殺風景で、 問 四四 潜入型 出口ドアから覗くカラフ 立の語 買り手

ったかもしれない。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

ューズメントパークの園内である。

銀の半円リングが回っている。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、 すでに入場料を払っているのだか

> 5 動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議の

国

や く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。中ナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキーナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そういったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣の割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当れた線を隠しきれてはいない。

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。

まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めでる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めでる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めでる訴訟は続いている。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、会談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

◆ 問一 12b 三人称限定①

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

いく。 刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってれいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

て歩いていく。

やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

にマットレスの感触。 る音がずっと右から下から左から――そして膝に足駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

していられるの?しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

### 問一 12b 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部れると、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

して向こう側を見ようとする。

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

禁を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと

禁を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと

159 文体操舵記録

助走をつけてジャンプすると、半円のフレー

ムがま

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

問二 12b 遠隔型の語り手

RPMかい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、養し向儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向サイクルキャプチャ®のアーチが回っている。地球

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ――内部へ跳びこむことを要求する。図式としてはサイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転84〜8の範囲で回転している。

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を卜施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

っている。 のできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン は外ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン はがないの本来の使用者である常駐保安員のやること はがないる。

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

#### 問三 12b 傍観型の語 り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ –背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 今子供 着陸時

> 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛か 同シフトの

予定もたたないだろう。とはいえ、 威圧感を覚えたのか、 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 近づいてくる強面の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 私のような雇われ つまり私に アミューズ

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 りな旧式スキャナの電源を入れる。 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 緒に来たと思しき男の子と

緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

問 四

エントランスは殺風景で、

潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

5

だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

や

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、 ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう そのような事 文体操舵記録

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間

を取

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒がんだ枠となって残っている。アトラクションではないので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチャの導入事例としてカタログには載っているが、それは実際に運用される前の状態であった。当時の面影は当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの場所を選んだ理由だった。

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

いた。

込むだろう。

高橋も唐木田も、

そのシナリオは避けた

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して

言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ

「当日の様子を話していただけますか?」「当日の様子を話していただけますか?」「当日の様子を話していただけますか?」を取ったが部屋を外しているときの出来事だったのといったがが部屋を外しているときの出来事だったのといったがが部屋を外しているときの出来事だった。といったがが部屋を外しているときの出来事だった。といったがが部屋を外しているときの出来事だった。といったが部屋を外しているときの出来事だった。

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

#### 視 点と語 りの声 13

問一 13a 三人称限定①

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

いく。 唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

て歩いていく。 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

にマットレスの感触。

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から――そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

る。 けるのを見た。 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

通り抜けた。 無事に。 みんなそうしてるみたいに。 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、

٤ していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、

#### 問一 13a 三人称限定②

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 - 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

啓は駆けだしていた。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

> 知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 啓は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と その全部がコマ送りで感

文体操舵記録 167

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

か

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 遠隔型の語 前り手

かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向 地球

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 サイクルキャプチャ®は、 チ内側の高速度カメラは一回 1部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 対象が動いてくるのを 転で30~40枚の人体 図式としては 《再構成圏 内

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 13a 傍観型の語り手

日ぶり十六件目。

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

威圧感を覚えたのか、

彼らの顔が強張る。

アミューズ

つまり私に

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。

5

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

国

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

エントランスは殺風景で、 問 四四 潜入型の語 出口ドアから覗くカラフ 買り手

ったかもしれない。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

ューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、 すでに入場料を払っているのだか

や

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議の

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

れた線を隠しきれてはいない。

られる。

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

保安員が指導されているのは、そのような事

アで保安員を配置するよう記されている。

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣とていた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

#### 171 文体操舵記録

まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれられだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたかった。少なくともその点で、二人の利害は一致していた。

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が

◆ 問一 13b 三人称限定①

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

っちへ行きたかった。

弟の手前でさえなければ

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し

いく。 刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってれいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 る音がずっと右から下から左から――そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

る。 けるのを見た。 しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

していられるの?

問一 13b 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと

助走をつけてジャンプすると、半円のフレー

ムがま

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

文体操舵記録

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

での期間限定だけど。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

問二 13b 遠隔型の語り手

毎分回転8~48の範囲で回転している。 像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 はいりである。地球

— 内部へ跳びこむことを要求する。図式としてはサイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやることく人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停く人間を検知し

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

175 文体操舵記録

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

# ▼ 問三 13b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

ないドアに向かって親子連れを先導した。

同シフトの

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて似の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手供の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手供の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのよりに表している。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく緒に歩いていた。

ない。

問

エントランスは殺風景で、 四 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

や

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

5

だ大人の子供のスキャンし、 いものだ。 に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 踏み込

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ 時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー く球の中央を通る。 ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 そのような事 を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝しておずんだ枠となって残っている。アトラクションではないので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチは実際に運用される前の状態であった。当時の面影は当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの場所を選んだ理由だった。

れた線を隠しきれてはいない。 げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上 ります

いた。

込むだろう。

高橋も唐木田も、

そのシナリオは避けた

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して

言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれいなる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を をいったがが部屋を外しているときの出来事だった。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を をいったがが部屋を外しているときの出来事だった。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を をいったがが部屋を外しているときの出来事だった。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を をいったがが記していただけますか?」

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

## 視点と語りの声 14

▼ 問一 14a 三人称限定①

いく。

「別を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突きたいに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

て歩いていく。 で歩いていく。 で歩いでは、男が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわりの先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。

転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

る音がずっと右から下から左から――そして膝に足やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、以びムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、りズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、地方でして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りによっている。

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけにマットレスの感触。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

٤ していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

#### 問一 14a 三人称限定②

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 - 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

啓は駆けだしていた。

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

> 知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 啓は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと その全部がコマ送りで感

文体操舵記録

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

ゕ

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 遠隔型の語 ŋ

地球

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 チ内側の高速度カメラは一回 ´イクルキャプチャ©は、 1部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 対象が動いてくるのを 転で30~40枚の人体 図式としては 《再構成圏 差し向 内

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 14a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

のだ。 のだ。 のだ。 しれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時かに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。

5

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

国

ない。 緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

問 四四 潜入型の語 り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。

銀の半円リングが回っている。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、

すでに入場料を払っているのだか

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議の

や く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのような事られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。といったが部屋を外していたではスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当か割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答の割り当てられているときの出来事だった。

いた。 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋も唐木田も、 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた

るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はか こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、 しゅわん、 問一 14b と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。メ 三人称限 定 (1) トロノームみ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ける。 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

て歩いていく。

П

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 ることは、悠にはまだ信じられない。 っちへ行きたかった。 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け 弟の手前でさえなければ

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に

駆けだして、 る音がずっと右から下から左から――そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。

悠は口を引き結び、

振り向いて円リングが回り続

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

けるのを見た。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も

#### 問一 14b 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

文体操舵記録 187

助走をつけてジャンプすると、半円のフレー

ムがま

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

での期間限定だけど。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

問二 14b 遠隔型の語り手

RPMの号を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向様の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向サイクルキャプチャ®のアーチが回っている。地球

──内部へ跳びこむことを要求する。図式としてはサイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを毎分回転8〜48の範囲で回転している。

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》を用りの高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ@へ飛び込む親子連れも、年齢制限を卜施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

189 文体操舵記録

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

#### 問三 14b 傍観型の語 り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ –背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 今子供 着陸時

予定もたたないだろう。とはいえ、 威圧感を覚えたのか、 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 近づいてくる強面の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 私のような雇われ つまり私に アミューズ

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛か 同シフトの

緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

問 四 14b 潜入型の語り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

や

銀の半円リングが回っている。

5

虹をくぐった先の魔法の国、

霧を抜けた先の不思議の

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

VRアミューズメント施設では実際に体を

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 そのような事 を取

文体操舵記録 191

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

場所を選んだ理由だった。 げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田 エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒 が振り返ると、 機材の それこそが、 跡の染みから目線を上 化粧でも、やつ 当時の面影は 唐木田がこの

> 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、エントラ そのシナリオは避けた 事故の責任を

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

いた。

た線を隠しきれてはいない。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

# 視点と語りの声 15

◆ 問一 15a 三人称限定①

いく。

刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き吃りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

て歩いていく。 で歩いていく。 で歩いでは、男が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜いと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわりの先では、男がトランポリンに向かって小走りに

にマットレスの感触。

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。

転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切を音がずっと右から下から左から――そして膝に足を対して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切める音がずっと右から下から左から――そして膝に足を対して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りができない。

けるのを見た。

膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

通り抜けた。

無事に。

みんなそうしてるみたいに。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと立んだレンズ――あんなの、も

### 問一 15a 三人称限定②

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

啓は駆けだしていた。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

して向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はれりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

195 文体操舵記録

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

か

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 15a 遠隔型の語 ŋ

かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向 地球

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 サイクルキャプチャ®は、 チ内側の高速度カメラは一回 1部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 対象が動いてくるのを 転で30~40枚の人体 図式としては 《再構成圏 内

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、 事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。 うのが問一段階では取りにくい いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、 未知の情報を読者に提示することを主目 (問二でわかった)と とい

日ぶり十六件目。 問三 15a 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 背中を椅子越しにリズミカ

> のだ。 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え 一睡もできなかったけれど。 今子供

威圧感を覚えたのか、 予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 彼らの顔が強張る。

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

アミューズ

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。 髙橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛か ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし 安心させる 同シフトの

りな旧式スキャナの電源を入れる。

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

国

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

ったかもしれない。

踏み込

いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに

緒に歩いていた。

エントランスは殺風景で、 問 四四 15a 潜入型の語 出口ドアから覗くカラフ り手

ューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、 すでに入場料を払っているのだか

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ や く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 アトラクションの一部と言えなくもない。 それは

5

虹をくぐった先の魔法の国、 霧を抜けた先の不思 議の

198

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。中ナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキーはをいたのを手短に別室へ案内することも含まれる。

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当かれた線を隠しきれてはいない。

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にこれなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 15b

三人称限

定(1)

いく。刺する。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

て歩いていく。

っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 がリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対して過りない。 ロ転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し

リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 る音がずっと右から下から左から――そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

していられるの?

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と

問一 15b 三人称限定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

文体操舵記録 201

助走をつけてジャンプすると、半円のフレー

ムがま

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓は わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

での期間限定だけど。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に向か

> R P M かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 15b 遠隔型の語 り手

毎分回転4~4の範囲で回転している。R p M サイクルキャプチャ®は、 内部へ跳びこむことを要求する。図式としては 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。サイクルキャプチャ©は アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 《再構成圏 内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 一個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

地球

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

っている。 のできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン はかない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン はかない。安全性に懸念を示す親や、ケリカーを はかないる。と

> 整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を 読者に提示することを主目がいる 関口でおかった)と

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

# ▼ 問三 15b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。この世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりに記るのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、そちないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛か

同シフトの

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし一少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れていると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらりな旧式スキャナの電源を入れる。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく緒に歩いていた。

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 5 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

や

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 そのような事 を取

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒 それこそが、 当時の面影は 唐木田がこの

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 た線を隠しきれてはいない。 唐木田 が振り返ると、 機材の 跡の染みから目線を上 化粧でも、やつ

ります

いた。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 そのシナリオは避けた 事故の責任を エントラ

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

# 視点と語りの声 16

◆ 問一 16a 三人称限定①

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ

て歩いていく。 で歩いていく。 で歩いでは、男が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜いと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわりの先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、明ズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいる音がずっと右から下から左から――そして膝に足を対して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りができたから上にない。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。とは口を引き結び、振り向いて円リングが回り続か。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

にマットレスの感触。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

#### 問一 16a 三人称限定②

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 れると、、 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 - 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

啓は駆けだしていた。

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 啓は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと その全部がコマ送りで感

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、\*サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。◆ 問二 16a 遠隔型の語り手

毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M

かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され

差し向地球

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、下縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そこに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。の加速度になるよう補正して回転で300~40枚の人体を撮像する。サイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 16a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

のだ。 のだ。 のだ。 しれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時かに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

保安員に彼らを追い出すような権限はない。予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、

彼らの顔が強張る。

アミューズ

つまり私に

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

エントランスは殺風景で、 問 四四 潜入型の語 出口ドアから覗くカラフ り手

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

ューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、 すでに入場料を払っているのだか

や

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 国 虹をくぐった先の魔法の国、 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

議の

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

5

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ャナを怖がる子供、 られる。 ニュアルでは、 保安員が指導されているのは、そのような事 うまく飛べそうにない大人、そう 別室扱いの客が出た時のためにペ

ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな いので、 エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒 広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの は実際に運用される前の状態であった。 ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ 当時の面影は

ります」 一わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、 れた線を隠しきれてはいない。

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 していた。 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 当時のシフト表ではスキャナールームにの 高橋という名の元従業員は、エントラ

まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれられだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたかった。少なくともその点で、二人の利害は一致していた。

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、会談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

◆ 問一 16b 三人称限定①

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

にマットレスの感触。 る音がずっと右から下から左から――そして膝に足駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もと、内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

## 問一 16b 三人称限定②

れると、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

して向こう側を見ようとする。とて向こう側を見ようとする。半円のフレームが一回転して向こう側を見ようとする。半円のフレームが一回転にて向こう側を見ようとする。半円のフレームが一回転して向こう側を見ようとする。

215 文体操舵記録

助走をつけてジャンプすると、半円のフレー

ムがま

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

サイクルキャプチャ®のアーチが回っている。 ◆ 問二 16b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

サイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを毎分回転84~48の範囲で回転している。wい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ――内部へ跳びこむことを要求する。図式としてはサイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を卜施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

超えたばかりの子供たちも、

何事もない顔をして回転

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

217 文体操舵記録

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

## ・ 問三 16b 傍観型の語り

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。この世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

ないドアに向かって親子連れを先導した。

同シフトの

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近いてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて似を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく緒に歩いていた。

ない。

問

エントランスは殺風景で、 四 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の

それは

5

だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

VRアミューズメント施設では実際に体を

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 踏み込

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。

や

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 そのような事 を取

文体操舵記録 219

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝しておずんだ枠となって残っている。アトラクションではないので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチッので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチッので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチッので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチッので、広告用の園内写真をおいる。アトラクションではなが、根本された機材の跡が黒

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

ります

いた。

込むだろう。

高橋も唐木田も、

そのシナリオは避けた

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して

言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ

めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証

まだサイクルキャプチャの開発元と、

事故の責任を

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当にていた。当時のシフト表ではスキャナールームにの無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラー、当日の様子を話していただけますか?」

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

## 視点と語りの声 17

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという◆ 問一 17a 三人称限 定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜けて歩いていく。ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜いの先では、男がトランポリンに向かって小走りに

にマットレスの感触。

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にりなるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、即だして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切察けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切察けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがずっと右から下から左から――そして膝に足

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

#### 三人称限定②

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 - 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

> 知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 啓は

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

啓は駆けだしていた。 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。

文体操舵記録 223

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

か

毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 遠隔型の語 前り手

差し向 地球

サイクルキャプチャ®は、

対象が動いてくるのを

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 チ内側の高速度カメラは一回 1部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 転で30~40枚の人体 図式としては 《再構成圏 内

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三17a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

のだ。 のだ。 のだ。 している親が浮かべているのと同じもたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時かに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

保安員に彼らを追い出すような権限はない。予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

5

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

緒に歩いていた。

問 四四 潜入型 立の語 買り手

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。

その回る動きも、 すでに入場料を払っているのだか

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ 銀の半円リングが回っている。 エントランスは殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ や

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議の

国

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。やナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ戦を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

られる。

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣の間のはたいた。当時のシフト表ではスキャナールームにのとていた。当時のシフト表ではスキャナールームにのといた。当時のシフト表ではスキャナールームにのが出るが、事故が起きた時の第一応答れた線を隠しきれてはいない。

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。

いた。 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋も唐木田も、 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた

るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はか こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、 しゅわん、 と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。メ トロノームみ

三人称限

定 (1)

> いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

ける。 て歩いていく。 りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

П

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 っちへ行きたかった。 ることは、悠にはまだ信じられない。 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 弟の手前でさえなければ

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 る音がずっと右から下から左から――そして膝に足 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も

#### 問一 17b 三人称限 (定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

ムがま 文体操舵記録 229

して向こう側を見ようとする。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレー

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で連るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目での期間限定だけど。

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 ◆ 問二 17b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

230

地球

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を卜施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること上ボタンのは

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を でい (間二でわかった)とうのが間一段階では取りにくい (間二でわかった)といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

231 文体操舵記録

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

# ・ 問三 17b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。この世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし一少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらりな旧式スキャナの電源を入れる。りな旧式スキャナの電源を入れる。

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく緒に歩いていた。

ない。

#### 問 四

17b

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。

銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。 それは

や

5

虹をくぐった先の魔法の国、

霧を抜けた先の不思議の

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

> ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 そのような事 を取

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチは実際に運用される前の状態であった。当時の面影は当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの場所を選んだ理由だった。ります」

まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をといったかが部屋を外しているときの出来事だった。していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのしていた。当時のシフト表ではスキャナールームにのしていた。当時のシフト表ではスキャナールームにのに。もう一人の保安員、たしか宮垣無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラー、当日の様子を話していただけますか?」

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

げて緑のジャケットの女性が頷いた。

化粧でも、やつ

いた。

込むだろう。

高橋も唐木田も、

そのシナリオは避けた

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して

言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ

めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証

れた線を隠しきれてはいない。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

## 視点と語りの声 18

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという◆ 問一 18a 三人称 限定①

いく。刺れる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

て歩いていく。

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、がリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になる音がずっと右から下から左から――そして膝に足を対して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切めていまった。

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

にマットレスの感触。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと立んだレンズ――あんなの、も

#### 問一 18a 三人称限定②

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずも力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずを変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコーの書部と、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

啓は駆けだしていた。

して向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

237 文体操舵記録

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

か

毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 18a 遠隔型の語 前り手

差し向 地球

サイクルキャプチャ®は、

対象が動いてくるのを

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 チ内側の高速度カメラは一回 1部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 転で30~40枚の人体 図式としては 《再構成圏 内

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 18a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

国

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 問 四四 18a 潜入型の語 出口ドアから覗くカラフ り手

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。

銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、 すでに入場料を払っているのだか

や

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 5 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議の

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」れた線を隠しきれてはいない。

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの

#### 241 文体操舵記録

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたいなができなければ、あと数年はもつれまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前によりですが、書いているときは過去の回転ドア事故なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 18b

三人称限

定①

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りにいく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

て歩いていく。ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜

口

転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。かだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、終と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対さったとは、悠にはまだ信じられない。

リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけにマットレスの感触。

駆けだして、

なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、

視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。

悠は口を引き結び、

振り向いて円リングが回り続

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。

していられるの?

#### 問一 18b 三人称限定②

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

して向こう側を見ようとする。

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 ◆ 問二 18b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

サイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを毎分回転4~48の範囲で回転している。かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

っている。 の本来の使用者である常駐保安員のやることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンはがない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン

> 整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を 読者に提示することを主目がいる時間一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

# 問三 18b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。この世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じものど。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻ってりな旧式スキャナの電源を入れる。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく緒に歩いていた。

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四 18b潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

5

虹をくぐった先の魔法の国、

霧を抜けた先の不思議の

だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

VRアミューズメント施設では実際に体を

や く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 そのような事 を取

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ

ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう

アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

場所を選んだ理由だった。 ります 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田 エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒 が振り返ると、 機材の それこそが、 跡の染みから目線を上 当時の面影は 唐木田がこの

言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ

めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証

まだサイクルキャプチャの開発元と、

事故の責任を

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、エントラ

いた。 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 余談ですが、 高橋も唐木田も、 そのシナリオは避けた

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ 書いているときは過去の回転ドア事故

げて緑のジャケットの女性が頷いた。

化粧でも、やつ

た線を隠しきれてはいない。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

## 視点と語りの声 19

◆ 問一 19a 三人称限定①

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ

て歩いていく。

で歩いていく。

な歩いていく。

な歩いでは、男がトランポリンに向かって小走りに

のの先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 
い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの 
でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 
でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 
でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 
でも弟はもう駆けだと大体三歩、弟の背丈ならだいた 
て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた 
でも弟はもう駆けだしていた。座面の矢印が点滅し 
なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけにマットレスの感触。

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る音がずっと右から下から左から――そして膝に足

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

٤ していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

#### 問一 19a 三人称限定②

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 啓は

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 文体操舵記録 251

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、ギサイクルキャプチャ©のアーチが回っている。◆ 問二 19a 遠隔型の語り手

毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M

かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され

差し向地球

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そのを上りでする際の速度から映像中の重心位置を補正し、で突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 19a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃー日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

のだ。 のだ。 のだ。 しれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時かに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

保安員に彼らを追い出すような権限はない。予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、

彼らの顔が強張る。

アミューズ

つまり私に

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

緒に歩いていた。

エントランスは殺風景で、 問 四四 19a 潜入型 出口ドアから覗くカラフ 立の語 前り手

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。

銀の半円リングが回っている。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、 すでに入場料を払っているのだか

や

虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 5 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議の

国

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。キナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

れた線を隠しきれてはいない。

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋も唐木田も、 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた

るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はか こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、 しゅわん、 と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。メ トロノームみ

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し

問一 19b

三人称限

定 (1)

> いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

ける。 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

口

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 っちへ行きたかった。 ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け 弟の手前でさえなければ

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

にマットレスの感触。 る音がずっと右から下から左から――そして膝に足駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もど、内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

## 問一 19b 三人称限定②

れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも―― 啓が丘人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと さの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から かっていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。

257 文体操舵記録

助走をつけてジャンプすると、半円のフレー

ムがま

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で啓は駆けだしていた。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いり柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、羊サイクルキャプチャ®のアーチが回っている。◆ 問二 19b 遠隔型の語り手

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ――内部へ跳びこむことを要求する。図式としてはサイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転84〜8の範囲で回転している。

R P M かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ⑥へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

> 整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を 読者に提示することを主目がいる時間一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

259 文体操舵記録

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

# > 問三 19b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。この世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

緒に歩いていた。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

260

ない。

問四 19b 潜入型の語り手

ったかもしれない。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

ューズメントパークの園内である。ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミエントランスは殺風景で、出口ドアから覗くカラフ

銀の半円リングが回っている。

国、飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。ら、アトラクションの一部と言えなくもない。それはその回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カや、おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、と球の中央を通る。しかし時折、勢いあまった子供達正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込

ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚べで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。

261 文体操舵記録

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

だ大人の子供のスキャンし、

その現し身をデータ世界

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

VRアミューズメント施設では実際に体を

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒 それこそが、 当時の面影は 唐木田がこの

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 た線を隠しきれてはいない。 唐木田 が振り返ると、 機材の 跡の染みから目線を上 化粧でも、やつ

ります

いた。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、エントラ そのシナリオは避けた 事故の責任を

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

# 視点と語りの声 20

◆ 問一 20a 三人称限定①

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ

て歩いていく。 で歩いていく。 で歩いでは、男が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわりの先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。

転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 をだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

けるのを見た。

る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ
にマットレスの感触。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

٤ していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

### 問一 20a 三人称限定②

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 - 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

啓は駆けだしていた。

知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 啓は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

ゕ

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 20a 遠隔型の語 ŋ

毎分回転8~8の範囲で回転している。R P M

かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され

差し向 地球

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 ・チ内 ´イクルキャプチャ©は、 1部へ跳びこむことを要求する。 .側の高速度カメラは一回 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 対象が動いてくるのを 転で30~40枚の人体 図式としては 《再構成圏 内

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とがギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 20a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

緒に歩いていた。

問 四四 20a 潜入型の語

り手

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ

その回る動きも、 すでに入場料を払っているのだか

銀の半円リングが回っている。

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 5 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議の

国

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

や く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

られる。

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」れた線を隠しきれてはいない。

ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの

いた。 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋も唐木田も、 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた

るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はか こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、 しゅわん、 と風を切る音がする。低いぶーんという 20b 周期的に繰り返す。メトロノームみ 三人称限 定 1

っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け て歩いていく。

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 る音がずっと右から下から左から――そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

> 問一 20b 三人称限定②

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

助走をつけてジャンプすると、半円のフレー ムがま

していられるの?

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いり柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

問二 20b 遠隔型の語り手

毎分回転8~8の範囲で回転している。 像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向はの弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向いたが回れている。地球

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を卜施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を 読者に提示することを主目がいる時間一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

### 問三 20b 傍観型の語 り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ –背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 今子供

予定もたたないだろう。とはいえ、 威圧感を覚えたのか、 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に 彼らの顔が強張る。 私のような雇われ アミューズ

緒に歩いていた。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 りな旧式スキャナの電源を入れる。 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と そちらの大掛か 同シフトの

274

ない。

### 問

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 四 20b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

ューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 5 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

> ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ や く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 そのような事 を取

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

VRアミューズメント施設では実際に体を

いものだ。

だ大人の子供のスキャンし、

その現し身をデータ世界

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒がんだ枠となって残っている。アトラクションではないので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの場所を選んだ理由だった。

「当日の様子を話していただけますか?」 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラといったかが部屋を外しているときの出来事だった。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をあぐる訴訟は続いている。 唐木田がこの場で有効な証めぐる訴訟は続いている。 唐木田がこの場で有効な証めぐる訴訟は続いている。 唐木田がこの場で有効な証めでる訴訟は続いている。 唐木田がこの場で有効な証めでる訴訟は続いている。 唐木田がこの場で有効な証さない。 高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。 高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

げて緑のジャケットの女性が頷いた。

唐木田が振り返ると、

機材の

いた。化粧でも、やつ跡の染みから目線を上

いた。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して

れた線を隠しきれてはいない。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

#### 文体操舵録

2022/07/13 初版発行

著者 あやふや

Telecocoon, Ltd. 発行

https://telecocoon.netlify.com

組版

vivliostyle-jppb https://github.com/ayhy/vivliostyle-

jppb

電子版なので乱丁落丁の代わりに誤字脱字がありま す。ご容赦ください。